

2025 年 7 月 15 日

一般社団法人日本音楽療法学会
日野原賞選考委員会

第 5 回日野原賞の受賞者が決定しました

第 5 回日野原賞

≪論文部門≫計 2 名

- ① 受賞者 中谷 菜々美
- 受賞対象論文 Music Therapy Preferences Among Breast Cancer Patients Undergoing Chemotherapy: A Qualitative Study
- 掲載誌 Music Therapy Perspectives(2025,40,1,miae029)
- ※2024 年 12 月 26 日刊行
- ② 受賞者 植村 真帆
- 受賞対象論文 Dorsal Anterior Cingulate Cortex Coordinates Contextual Mental Imagery for Single-Beat Manipulation during Rhythmic Sensorimotor Synchronization
- 掲載誌 Brain Sciences. 2024 July 28;14(8):757.

≪活動部門≫計 1 団体

- 受賞団体 NPO 法人あんだんて KOBE
- 団体運営者 和泉 裕子
- 活動名 知的障害者の音楽サークル「あんだんて KOBE」におけるコミュニテ
ィ音楽療法実践

2025 年 9 月 7 日（日）午前 9 時 15 分から、第 25 回日本音楽療法学会学術大会(つくば国際会議場)で授賞式が行われ、受賞者には表彰状、楯、副賞（10 万円）が授与される予定です。授賞式後には、受賞者による記念講演があります。多くの会員に聴いていただけましたら幸いです。なお、受賞記念講演は後日オンデマンドで配信されます。

日野原賞は、日本音楽療法学会（本学会）の創設と発展に貢献された故日野原重明初代理事長を顕彰する学術奨励賞として、2021 年度より創設されました。日野原先生の理念である“keep on going”を継承し、音楽療法の発展に貢献する学術研究や臨床現場での継続的な活動を奨励し、その結果、日本の音楽療法が人々の健康維持・増進に貢献することを目的としております。

日野原賞の対象は以下の3種です。

(論文部門)

対象A：2024年1月～12月までに、日本音楽療学会誌に掲載された原著、または事例研究の筆頭著者。

対象B：2024年1月～12月までに、国内外の学会誌（第三者による査読のあるもの）に掲載された原著または事例研究の筆頭著者（本学会員に限る）

(活動部門)

対象C：2024年4月1日～2025年3月31日の期間に、音楽療法の普及・発展に貢献した活動を行った本学会員、または本学会員が運営する組織・団体。

※BおよびCに関しては、自薦、他薦が必要。

結果、本年度は対象Aは該当なく、対象Bの2名、対象Cの1団体が選考の対象となりました。

論文部門は、2編の論文が甲乙つけがたく、同時受賞となりました。

受賞者は中谷菜々美会員（東海大学医学研究科先端医科学専攻）と植村真帆会員（武庫川女子大学音楽学部）です。

中谷会員の対象となった論文は、「Music therapy preference among breast cancer patients undergoing chemotherapy : a quantitative study.」(Music Therapy Perspectives, 2025,40,1,miae029)です。

筆者らは、乳がん患者の音楽療法を標準化するプロセスとして、化学療法を受けている乳がん患者が受けたと考えている音楽療法の特徴を grounded theory approach を用いて抽出しました。この結果、「音楽との関係」「治療による苦痛」「音楽療法の好み」の3つのカテゴリーと複数のサブカテゴリーが抽出されました。

本論文は、日本で化学療法を受けている乳がん患者の音楽療法の好みに関する仮説を立てた最初の研究になります。乳がんの治療は、心理療法の研究も盛んな状況で、今後音楽療法士が総合病院に進出する機会が増える可能性があります。本論文は、丁寧に分析が行われた質的研究として高く評価されました。

植村会員の対象となった論文は、「Dorsal Anterior Cingulate Coordinates Mental Imagery for Single-Beat Manipulation during Rhythmic Sensorimotor Synchronization.」(Brain Sciences. 2024 July 28:14(8):757)です。

人間が社会的活動を行う際に「他者の動きを予測しながら、自分の行動を決定する」という高度な脳の情報処理が行われます。本論文は、これらの運動制御のメカニズムを解明するために、オドボール課題を用いた認知行動実験と脳は事象関連電位測定を組み合わせた基礎的研究です。得られた結果を研究仮説と明確に対応づけ、背側前帯状皮質の果たす役割を強調しております。

音楽療法も音（音楽）を介したセラピストとクライアントの非言語的な交流を通して効果が表れますが、これらの交流の科学的な基盤を説明する重要な研究と考えられます。選考委員会でも論文の論理性と音楽療法に貢献する可能性が高く評価されました。

活動部門の受賞団体は、NPO 法人あんだんて KOBE（運営者：和泉裕子会員）です。

同団体は2010年に設立後、知的障害者を対象とした月2回のグループ音楽療法の他に定期コンサートや舞台パフォーマンスを行っております。音楽療法士、教育関係者、音楽家、舞台芸術関係者、学生など様々な立場の人々が参加しております。公的機関を含めた団体から講演や演奏の依頼もあるそうです。選考委員会では、本団体の持続性、多くの専門家が参加している点が高く評価されました。

なお、今回の選考にあたり、論文部門、活動部門とも1名の選考委員会を対象となる研究・活動の関与して行いました。このため日野原賞規約及び選考基準に則り、今回の選考は論文部門、活動部門とも当該委員を除いた6人で選考を行いました。

今回は質的研究、基礎研究、地域に根付いた活動と、幅広い分野での成果が会員に共有されること、

とてもうれしく思います。今後は学会誌への投稿論文が増えることを含めて、多くの会員の方々に応募していただきたいと思います。